

# WINDOW



地球の反対側パラグアイで根付こうとする高知のよさこい(高知ファイティングドッグスの駒田監督(一番手前)も鳴子踊りに挑戦)



異文化出前講座(須崎市・吾桑小学校)

## ～鳴子集まれ～!!～

高知発祥の「よさこい」は、今や世界中に広がりを見せていますが、海外では、練習や発表用の「鳴子」や「はっぴ」を用意するのが簡単ではありません。

県では、ご家庭等で不要となった鳴子やはっぴを集めて海外チームに寄贈しています。高知の「よさこい」を、世界へもっと広げるためにぜひ皆様のご協力をお願いします。



寄贈された鳴子とともに

問合せ先  
高知県国際交流課  
橋上または吉良(TEL:(088)823-9605)

2018  
Spring  
No.68

- 世界の国々についてもっと知ろう!!  
(異文化理解講座、異文化出前講座、親子で学ぶ国際理解講座)
- 楽しんで日本語を教えてみよう!  
平成29年度日本語ボランティア講師養成講座
- はじめての高知県で過ごす最高の夏!!  
～韓国青少年交流プログラム
- スポーツを通じた国際交流～2020年に向けて～
- 韓国全羅南道との姉妹交流協定～1周年を記念して～
- 高知とパラグアイのかけ橋
- INFORMATION BOARD  
国際交流員(着任、退任)あいさつ  
GENKI青年会土佐弁ミュージカル2018「土佐デレラ」



KIA利用時間／  
月～土(祝祭日を除く) 8:30～17:15  
(3連休の土曜日、8月の土曜日、年末年始は休み)



# 世界の国々についてもっと知ろう!!

## 異文化出前講座、募集しています

当協会では、学校等より依頼を受け、外国人講師を紹介しています。興味のある方は、当協会HPをご覧ください。

### 異文化理解講座

in  
安芸市

11月18日(土)、海外研修員として高知に来ている日系3世の宮脇ルカササビエルさん(アルゼンチン出身)と岡辺塚本豊(パラグアイ出身)に、国の紹介、食文化、高知県人会の様子など詳しく話してもらいました。参加者からは、「2人の日本語はとても上手で驚いた」、「遠い日本に来てのご苦労も大きい事だと思う」、「今の日本人が失いかけている純朴さ、素直さを持っているようで、日本人はもっとちゃんとせんといかんあ〜と思った」などの感想がありました。「また安芸に来て欲しい。料理を作って一緒に食べたい。」というお誘いも受けました。



異文化理解講座in安芸市にて

### 異文化理解講座

in  
四万十市

12月16日(土)、四万十市や県の国際交流員である田小嬌さん(中国出身)には「あなたの知らない中国」、ナオミ・ロングさん(イギリス出身)には「紅茶から鯉! 私はイギリスのチチェスターから来ました」というテーマで話してもらいました。参加者からは、「私の知らない中国のことをたくさん知れてとても良かった」、「中国を訪れてみたいという気持ちが深まります」、「イギリスの中でも言語の違いがあるのを初めて知った」、「イギリス人と日本人は性格が似ているのかもと思った」、「若いお二人が様々なことを考え活動されていることが良くわかりました」などの感想がありました。



異文化理解講座in四万十市にて

### 異文化出前講座

in  
高知南高校

12月14日(水)、高校主催のインターナショナルデイに、県や高知市の国際交流員やALT、南米研修員3名、計11人(英、米、インドネシア、シンガポール、中国、韓国、台湾、ブルキナファソ、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジル出身)、講師として参加しました。各国の紹介、ゲームや音楽などを通して高校生との交流を深めました。



高知南高校インターナショナルデイにて

### 親子で学ぶ

### 国際理解講座

in  
高知市

12月2日(土)高知市旭町にある「ソーレ」の調理実習室で、県内の小学生とその保護者を対象とした国際理解講座を開催し、親子あわせて21名が参加しました。講座では、高知県が受け入れている南米出身の日系研修員3名が講師となり、日本人の南米移民などについて学習した後、それぞれの国の料理を一緒に作りました。研修員は、彼らの親から聞いたレシピを頼りに、前もって調理の練習をしていたので、本番では調理の指導も味の調整も手際よく行うことができました。また、研修員は日本語を話せたので、参加者との会話も弾み、終始和やかな雰囲気ですべて講座が進みました。



親子で学ぶ国際理解講座

# 「楽しんで日本語を教えてください」

## 平成29年度日本語ボランティア講師養成講座

共催 高知県立大学国際交流センター

回数	月日	講師	テーマ
1	10月8日(日)	尾中 美代子	外国語としての日本語1:概論
2	10月14日(土)	尾中 美代子	外国語としての日本語2:文法
3	10月21日(土)	池 純子	日本語の教え方
4	10月28日(土)	池 純子	実習—実際に教えてみましょう!

当協会では、日本語のボランティア講師を養成するため、「高知日本語サロン」の中心メンバーとして活動をする先生方をお迎えし講義と実習を行いました。高知県立大学国際交流センターと共催して開催するのは今日が初めての試みでした。

講座前半は、ボランティアをする上での心構えや日本語教育の基礎知識として、文法や動詞・形容詞の活用法を学び「大学にコンサートがあります」「電気がつけています」などの表現が文法的にどうして誤っているかを学習者に説明ができるところまで学習しました。みなさん日本語のネイティブスピーカーでしたが、「教える」という慣れないことに難しさを実感しているようでした。

最終講座は、実際に地域の外国人住民も参加し、実際に参加者が外国出身者に日本語を教える練習です。「楽しんで外国人住民と交流をしながら日本語を教えてみる」というのがテーマだったので、楽しくフリートークも交えながらの活動でした。「気負いすぎずに自身も楽しんで活動することが、継続したボランティア活動のコツ」ということです。

参加者の皆さんからは「まだまだ勉強が必要だがきっかけを作ってもらってありがたい機会だった。最後に外国の方とも交流ができて楽しかった」「自分自身が楽しんで教えたらい良いというのを実際に感じる事ができた」などの声が聞かれました。

今回習得したスキルを継続して活用できるよう、日本語ボランティア活動の機会を増やしたり、スキルアップのための研修を開催したいと思います。



熱心にメモを取っています



グループワークの様子

### 身近なものでも日本語を教えるための教材に!...

- スーパーのチラシ… 値段の数字の読み方・ものや食べ物の名前
- マンガ…………… 「ガタガタ」「どきどき」「パクパク」などのオノマトペ  
吹き出しを空欄にして、何が入るか想像するのもよい
- 料理本…………… 料理の手順のための接続詞や、切る・煮るなどの動詞



外国人とお話をしながらの交流も



### 養成講座後の活動として...

学習をしたい外国の方と、ボランティア講師の方をマッチングして、1対1のレッスンを順次行っています。もしレッスン場所を探されている方がいましたら、ぜひKIAを活用ください。



高知家  
お家の家族になろう



# 初めての 高知で過ごす最高の夏!

平成29年度 韓国青少年交流プログラム

## 全羅南道 高校生5名が高知に!!

これは高知県と全羅南道の交流のきっかけである田内千鶴子さんについての学習や、県内の青少年と交流することが目的のスタディプログラムです。その中で四万十市と高知市において2泊ずつホームステイを実施し、高知の家庭での生活も体験しました。

## 高知の高校生らとの交流

四万十納涼花火大会では、中村高校の有志の生徒と一緒にお祭りを楽しみました。翌日の高校への訪問は夏休み中だったため、中村高校の生徒の案内のもと、部活動の見学を行いました。韓国の高校では部活動は週に1回ほどであり活発ではないため、バドミントン部・柔道部・吹奏楽部など興味津々の様子で見学をしました。

また高知東高校は、昨年のプログラム\*注の参加生徒5名の出身だったのが縁で訪問が実現しました。ハングルの授業に参加し、お互いのネームカードをお互いの言語で会話しながら作りあうという活動を行いました。言葉がうまく伝わらなくても、ジェスチャーを使ったり絵を描いたりして一生懸命コミュニケーションを取ろうと楽しんでいた様子が印象的でした。

またホームルームでは「フルーツバスケット」や「新聞ゲーム」を一緒に行い、言葉がいない活動だけあって、大変盛り上がり、お互いの心に残る良い交流となりました。放課後は茶道部の生徒に抹茶を立ててもらい、大満足の様子でした。

## 今後のつながり

平成30年度は高知の高校生が韓国を訪問するので(予定)、彼・彼女らが懸け橋となって、今後も交流が続いていくのを期待します。

\*注:平成28年度から隔年で、高知県と全羅南道の高校生がお互いの国へ行き交流している

### ホストファミリーの声

言葉の壁が一番の不安でした。しかし、皆さんとても積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれました。私の家に来てくれた方は特にそうでしたので、そのおかげで娘たちもすぐに打ち解けることができました。また、通訳アプリも使い、ごはんを食べたり、車で移動したりする中でお互いの国、文化、家族、将来の夢について沢山話をしました。特に韓国の高校で使われている日本語の教科書を見て皆で盛り上がりました。お別れするのはとてもさみしかったですが、今でもよく連絡を取り合っています。



8月25日	来高
8月26日	四万十ホビー館・カップパ館・四万十観光遊覧船 しまんと納涼花火大会へ
8月27日	中村高校の部活動を見学、四万十川カヌー体験
8月28日	鯉の薫焼き体験 よさこい情報交流館・帯屋町散策
8月29日	田内千鶴子生誕之地記念碑 五台山展望台・桂浜
8月30日	高知県立大学学生との活動(浴衣体験) 高知東高校訪問(放課後は茶道など部活動体験)
8月31日	帰国の途へ



四万十川にて



よさこい鳴子踊りも体験



浴衣体験!高知県立大学の  
学生さんが着付けてくれました



高知東高校での活動後、「TTポーズ」で記念撮影



高知東高校にて抹茶をいただく



中村高校にて、部活見学  
水泳プールは韓国のほとんどの学校にはないそう

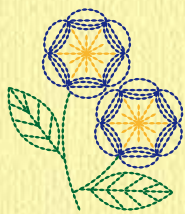
### 韓国高校生からの感想

- ① ホームステイで日本の伝統や文化を学ぶことができ、それを実践するよう努力した。いろいろな地域を訪問・旅行することの大切さを学んだ(チョン・イェソル)
- ② 私が普段見過ごしてしまうことまで気を使ってくれ、高知県で出会った人たちの親切を肌で感じる事ができた(キム・ボンソ)
- ③ 日本語がより聞き取れるようになり、単語も早く覚えられるようになった。日本語という言語が身近になり、もっと勉強したいと思うようになった。個人旅行では体験できない経験ができた(イ・ウンジ)
- ④ これからも田内さんによってできた関係が持続、発展していろいろな交流ができてほしいと願っている。そして僕がそのような交流の懸け橋になれば、という少し恥ずかしい想像を試みたりもする(ホ・ヒョニ)
- ⑤ 今回の研修を通して将来は私が住む地域を活かして高知県のようにいろいろな見所や食べ物などがある場所にしたい、とより決意するきっかけになった(ナ・イナ)



# 韓国全羅南道との姉妹交流協定 1周年を記念して

高知県文化生活スポーツ部国際交流課 主事 前田 智佐



## 一人の女性が残した韓国とのきずな

2017年10月31日、高知県・韓国全羅南道姉妹交流協定締結1周年記念行事を、高知県日韓親善協会と高知県との共催にて実施しました。高知は、第2次世界大戦前後の反日感情が高まっていた時代に、いくつもの困難と国籍の違いを乗り越え3千人の孤児を育て上げ、「韓国孤児の母」として今なお日韓で敬愛されている、本県出身の田内千鶴子<sup>ちうちづこ</sup>さんをきっかけに、韓国の全羅南道と友好交流を行っています。

2017年は姉妹交流協定締結1周年であり、高知市若松町に田内千鶴子さんの生誕記念碑が建立されて20周年である特別な年でした。その記念行事は、田内千鶴子生誕之地記念碑前でのセレモニー、室内に場所を移しての日韓福祉特別講演会、そして韓国訪問団歓迎レセプションの大きく3つのセッションで構成されました。

## 韓国から約100名の訪問団

まず、記念碑前でのセレモニーでは、代表列席者の献花や賛美歌合唱のほか、田内千鶴子さんが運営されていた木浦<sup>もつ</sup>共生園<sup>きやうせいえん</sup>の園児7人から韓国語と日本語での歌の披露もありました。また、千鶴子さんのご子息である田内基<sup>もと</sup>さんからは、これまでの苦労や20周年を迎えられたことへの感謝の思いを述べられました。

田内千鶴子さん記念碑前セレモニーで  
日韓の歌を披露する木浦共生園園児

記念碑での献花の様子

続いて行われた日韓福祉特別講演<sup>ゴソッキュ</sup>会では、高錫珪<sup>ムンソンユン</sup>前木浦大学総長、文聖倫<sup>ひぐちけい</sup>全羅南道児童福祉協議会会長、樋口恵子<sup>こ</sup>東京家政大学名

誉教授という、蒼々たる先生方から日韓の児童福祉に関するご講演をいただきました。県内の大学や専門学校の学生など若い世代の聴講者も多く、皆さん大変聞き入っている様子でした。



記念レセプションで挨拶をする尾崎知事(高知市)

最後に、歓迎レセプションでは高知を訪れた韓国訪問団約100名をおもてなしました。高知県知事及び副知事からは歓迎のご挨拶とともに、これまで長年交流を重ねて来られたことへの感謝を述べました。また中盤では、土佐市のよさこいチーム「土佐龍」さんに今年度賞を獲得した踊りを披露していただき、会場からアンコールがわき起こるほどの大盛況となりました。

## 若い世代の文化交流が広がる

毎年8月に開催される「まんが甲子園(全国高等学校漫画選手権)」では、3年前から海外チームがオープン参加し、今年度から本戦にも参加できるようになりました。今年度の韓国代表として出場していた全羅南道のチームが、海外勢として初めての優勝に輝きました。このように若い世代での交流が広がっていますので、彼らがそれぞれの地域が抱える課題を、互いに協力しながら解決し、相互発展に繋げられるような次世代を担う力となってくれることを願っています。

高知県では、今後とも、韓国全羅南道をはじめとする海外と地方レベルでの国際交流に積極的に取り組んでまいります。



記念レセプションでのよさこい踊りの披露



# スポーツを通じた国際交流

～2020年に向けて～

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課 主幹 黒石 佑介

日本では、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年の関西ワールドマスターズゲームズと、3年連続で一大スポーツイベントの開催が控えており、これらが連続して同一国で開催されることは、日本が初めてのことです。

全国でもスポーツに対する関心が高まってきており、スポーツを「する」、「みる」、「支える」など多様な関わりの中で、日常的な運動習慣の確立による健康増進や競技力の向上、スポーツイベントなどを通じた交流人口の拡大など、スポーツ振興の取り組みが進められています。

## ■文化生活スポーツ部に一元化

高知県でも昨年4月から、学校体育以外のスポーツに関連する業務を文化生活スポーツ部に一元化し、「競技力の向上」、「生涯スポーツの推進」、「スポーツツーリズムの振興」など、スポーツ振興の取り組みを本格的にスタートしました。

## ■オリンピックなどの事前合宿の招致

スポーツ振興の取り組みの一つに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国や地域が、コンディション調整などを目的に大会の直前に実施する合宿(事前合宿)の招致に取り組んでいます。現在、合宿の実現に向けて、シンガポール、オランダ、オーストラリア、

チェコ共和国などへの招致活動を進めています。

## ■シンガポールスポーツスクールとの交流

事前合宿の招致交渉を行う中で、シンガポールから、将来オリンピックや世界大会での活躍を目指す学生が在籍する国立のスポーツ学校「シンガポールスポーツスクール」との交流の提案があり、平成28年10月に相互の選手のスポーツ交流を通じて、競技力向上やお互いの国の教育や文化を知ることが目的とした協定書を交わしました。昨年8月には、第1回の交流事業として、シンガポールスポーツスクールの卓球とバドミントンの選手など26名が本県を訪れ、県内学生との練習や選手宅へのホームステイ、日本武道(剣道)やかつおの薫焼き体験など日本文化を感じる体験などを実施しました。

交流事業に参加した同校の先生からは「学生の競技に取り組む姿勢に変化が見られた」、また、選手からは「日本選手はどんな相手にも敬意をもって対戦している」、「どんな状況でも最後の最後まで諦めない姿勢を学んだ」など気づきの声が多く、満足度の高い交流を実施することができました。

## ■国際交流の輪が広がる

これまでに、シンガポール以外にも、オーストラリア女子ソフトボール代表チームやチェコカヌー競技代表選手、オランダの自転車競技(ロードバイク)代表選手などによる県内合宿が実施されました。合宿期間中の休養日などには地域住民との交流イベントや県内競技者、指導者への技術やコーチングの指導などが実施され、招致活動をきっかけに生まれたスポーツ交流から国際交流の輪が広がりつつあります。

スポーツを通じた交流は、言葉や文化の垣根を越えてコミュニケーションができ、相互の理解がより深まる貴重な機会です。今後も、スポーツの多様な価値を広く県民の皆様へ届けてまいりますので、高知県の取り組みにぜひご期待ください。



シンガポールスポーツスクールとの交流



シンガポールスポーツスクール学生の日本武道(剣道)体験



オランダ自転車競技代表選手と地域住民の交流【宿毛市】



チェコカヌー競技代表選手による  
県内選手への技術指導【須崎市】



# 高知とパラグアイのかけ橋

2018年JICAパラグアイ調査団※に参加して

高知県国際交流協会 職員 光井 綾

※JICA 四国支部が JICA 事業の理解促進と事業活用の検討・日系社会との繋がりの強化を目的に調査団を派遣



見渡す限りの赤土の大地、広がる真夏の大豆畑。高知を出て丸3日・・・高知と関係の深いパラグアイにやっとたどり着いた！

## 移住当時を振り返る

日本からパラグアイへの移住は1936年から始まり、高知県からは戦後1312人が海を渡った。これは全国最多の人数である。ジャングルだった荒野を拓き、そこで農業を始めた。(当時は食べることに住むことに大変苦労されたと聞く) 現在日系人は大規模農業(大豆・小麦など)や商工業で活躍する人が多く、パラグアイ社会の発展の礎となっている。

## 日系コミュニティとは？高知県人会訪問より

パラグアイには5つの高知県人会があり、1世からパラグアイ生まれの世代も所属する。今回訪問した4つの県人会では、どの県人会も日本食をどっさり用意して歓迎してくれた。現地料理のBBQ「アサード」が並んでいなければ、南米にいたことを忘れてしまうくらい、田舎で親戚同士が集まった時のように居心地のよい空間で「数年前に久しぶりに高知へ行ったら〇〇の建物がなくなっちゃって驚いた！」など思い出話にも花が咲いた。故郷である高知に対して、みなさんととても強い想いを今も持ち続けている。ちなみにパラグアイ生まれの日系人はほとんどがスペイン語と日本語のバイリンガルである。多くの人が現地の学校に通いながら、日本語学校にも通う。日本語学校の先生いわく、「世代が変わるにつれて日本語を学ぶ意識が希薄になっている」という。だが、ピラポやラ・パスなどの日系人割合が多い移住地では、今でも国語の教科書を用いた教育がなされ、スペイン語より「日本語が強い」と言われている地域だ。もちろん近所を行きかう日系人への挨拶も日本語だった。

## 「ここは高知?!」ひろがる高知のよさこい鳴子踊り

驚くべきことに、今パラグアイでよさこいが熱い！首都アスンシオンでは「KOSEI」というチームが、高知にルーツをもつ日系2世の西川さんの尽力により結成され、30～40人規模で活動をする。これまで日本祭りや夏祭りの出し物としては盆踊りが定番だったが、そこによさこい鳴子踊りも加わり始めたという。

移住地のラ・パス高知県人会では、富士葵さん(JICA短期ボランティア)を先頭に、婦人部や青年部の方達による鳴子踊りを披露してもらった。フィナーレは私たち調査団の団員も一緒になっての総踊り。見る人をも巻き込むその様子は高知のよさこいそのものであった。(富士さんは移住地等を巡回してよさこい鳴子踊りの普及に努めている。)

このように、この活動が日系人と非日系人の交流の接点となり、また日系人が日本文化を再認識するきっかけとなっている。よさこいがパラグアイ社会に与えつつあるインパクトの大きさを感じた。一方で、鳴子や衣装不足、次世代よさこいリーダーの不足など課題もいくつかある。

## 高知でパラグアイを実感する機会を！

このようにパラグアイと高知は密接な関係があるが、とくに若い世代にはそれをあまり知らない人も多いだろう(自分もかつてそうだった)。高知県は毎年パラグアイを含め南米諸国から日系研修生を受け入れている。そこで研修生と協力しながら県内の学校に赴いて出前講座を行い、高知県の移住の歴史や、パラグアイの日系社会について若い世代に伝えていく活動に力を入れている。これを今後とも継続をしていく必要を改めて感じた。

最後に、現地でお世話になった方々に御礼を申し上げるとともに、今後とも高知県やJICAと協力をしながらパラグアイ日系社会との絆づくりに努めていきたい。

地球の反対側でもよさこいが踊られていることを知り、驚きと感動の気持ちでした。パラグアイのよさこい普及に実際に関わることは本当にうれしく、よさこいのパワーは底しれぬと改めて感じました！



婦人部の方手作りの日本食



アスンシオン高知県人会の方々の笑顔



ラ・パス高知県人会にて 水色のはっぴは、約40年前に高知が寄贈したもの。以後婦人部の方が手入れをしながら大切に引き継いできたそう



広がる赤い大地

パラグアイで試作された鳴子。杉からできていて音がすこし重い

ご家庭で不要になった「鳴子」や「はっぴ」をお持ち寄りください！県から海外のよさこいチームへ寄贈しています。詳細は高知県庁国際交流課に。

「KOSEI」代表 西山まきさん(左)とJICA短期ボランティア富士葵さん(右)

# INFORMATION BOARD

## 国際交流員(中国) 退任あいさつ



チョウ ケイ ケツ  
張 慧 杰

高知でCIR(国際交流員)の四年間の任期を終え、今は皆様からの温かなご配慮があればこそものと実感しております。個人的には、未熟な点多々あったであろうし、迷惑をかけてしまったことも少なからずあったでしょうが、私としては高知の手つかずの大自然を楽しんだり、高知出身の坂本龍馬や岩崎弥太郎など日本を変える人達の波瀾万丈な人生に詠嘆しました。このようにして、高知で知り合った友達と一緒に協力しあう時間は、素晴らしい体験になりました。ありがとうございました。これから人生のどの段階においても、絶対高知での経歴を忘れず、高知家の一員として中国と高知県の橋渡しに尽力していきたいと思ひます。



フイ イン ヴァレリー テオ  
Hui Ying Valerie Teo

## 国際交流員(シンガポール) 着任あいさつ

初めまして! ヴァレリー・テオと申します。マーライオンの国、常夏のシンガポールから参りました。高知について色々勉強しながら、シンガポールの魅力を紹介したいと思ひます。趣味は語学と音楽で、日本に来てから三味線を習ひ始めました。土佐弁と韓国語にも挑戦しているところです。これからも色々活躍したいと思ひるので、よろしくお願い致します!

## GENKI青年会 土佐弁ミュージカル2018「土佐デレラ」

今年も4月にGENKI青年会という高知に住む外国人のボランティア団体が土佐弁ミュージカルを開催します! 今年のテーマは「土佐デレラ」です。世界中で愛されている童話「シンデレラ」に、高知らしい新しい解釈を取り入れて上演します。

(ストーリー) 鮎佐藤(土佐デレラ)は、高知県出身の父親が東京から高知に転勤することになった。鮎ちゃんは高知の生活が大好きだが、都会派の母親と弟はなかなか慣れない。Tシャツアート展のことを知り、自分も高知の人だと伝えたい鮎ちゃんは参加してみるが、しかし…。いろいろなことを乗り越え、鮎ちゃんは家族の価値観や高知家の意味を知ることになる。

土佐弁ミュージカルは地域の国際交流を草の根レベルで促進することを目標としています。ミュージカルの入場は無料ですが、海外留学を希望する県内の学生に助成金を募る募金活動を行っています。興味がある方はぜひ足を運んでください!

### 公演日時・会場

4月7日(土)	大豊町	大豊町ふれあいセンター	13:00~
	安芸市	安芸市民会館	18:00~
4月8日(日)	香南市	弁天座	18:00~
4月14日(土)	四万十町	窪川四万十会館	13:00~
	四万十市	四万十市立文化センター	18:00~
4月15日(日)	佐川町	桜座	13:00~
	高知市	県民文化ホール(グリーンホール)	18:30~

※開演時間は変更される場合があります。



2017年の「土佐バスターズ」

お問合せ: GENKI青年会代表 ナオミ・ロング  
TEL: 088-823-9605 (高知県国際交流課内)  
Website: [www.tosabenmusical.blogspot.jp](http://www.tosabenmusical.blogspot.jp)

